

8. 出直し市長選挙について

問15 最近行われた選挙についてお尋ねします。

[1] あなたは昨年12月18日に行われた小金井市長選挙で投票しましたか。一つ選んで○を付けてください。

			%
1	投票した(期日前・不在者投票を含む)	583	69.1
2	投票しなかった	259	30.7
99	無回答	2	0.2
	合計	844	100.0

[2] 問15[1]で「1. 投票した」と答えた方にお聞きます。市長選挙では、どの候補者に投票しましたか。さしつかえなければ、一つ選んで○を付けてください。

			%
1	稲葉孝彦 (無所属・元職 自民・公明推薦)	193	22.9
2	斎藤康夫 (無所属・新人 元市議)	181	21.4
3	野村 隆 (無所属・新人 元自治省企画官)	123	14.6
4	小泉民未嗣 (無所属・新人 共産推薦)	34	4.0
	非該当	261	30.9
99	無回答	52	6.2
	合計	844	100.0

昨年4月の市長選挙で、「草の根選挙」で臨んだ新人の佐藤和雄が、現職候補であった稲葉孝彦をおよそ2千票上回る1万8千票余を獲得して初当選を果たした。しかし、可燃ごみ処理の委託費用について「4年間で20億円のムダ使い」などと主張したことが、小金井市のごみ処理を支援してきた周辺市長の反発を招き、就任当初から周辺市との関係がこじれた結果、新たなごみの受け入れ先が見つからず、同年11月半ばには収集停止に陥る可能性に直面した。最終的に、佐藤が市長を辞職するのと引き換えに周辺市が受け入れを表明する形となり、可燃ごみの収集停止という事態は回避された。ただ、その後の出直し市長選では、落選して間もない稲葉の再出馬や、「反稲葉」の候補が乱立した選挙構図などもあって、市民のごみ問題に対する意識は市長選挙の関心には直結せず、12月の出直し選挙では4月の選挙の投票率46.16%をさらに3ポイントほど下回る投票率に終わった。また、出直し選挙では元職の稲葉が返り咲きを果たしたが、稲葉の得票数は落選した4月の選挙時よりも2千票余減らしており、必ずしも市民の積極的な支持によって選ばれたというわけではない、という側面もあることがうかがわれる。

それらのことも踏まえて見ていくと、まず投票したかどうかを単純集計で見た場合には、実際の投票率より25ポイント余り上回っているが、この種の調査では一般的に、元々関心の低い方から回答を得るのは簡単なことではなく、私が過去に実施した調査においても同様の傾向が見られることから、上記の数字は調査データとしては概ね許容範

困と言える。なお、調査にご協力いただけなかった方も含め、今回の調査対象者2332名を分母として計算すると、この設問で「投票した」と答えた人の割合は、ちょうど25%となる。

次に、どの候補者に投票したかについては、実際の得票数との対比で考えると、稲葉に投票した人の回答数が若干少ないように思われるが、概ね各候補の現実の得票状況を反映した比率となっている。年代別および居住年数別の回答状況を確認しておくと、ここでの特徴としては、年代別では、回答数の少ない20代の投票者を別にして見ると、稲葉に投票したと答えた割合は年齢に比例して上昇し、逆に斎藤に投票したという回答の割合は年齢と反比例の関係にあることが挙げられる。すなわち、稲葉を選んだ有権者は30代では各年代の中で最も低い約14%で、年代が上がるにつれてその割合は上昇し、70歳以上で約49%と最も高くなっている。一方、出直し選挙では次点だった斎藤への投票割合は、30代で約45%と最も高く、年代が上がるにつれて低下し、70歳以上では約16%と最も低い値となる。これと似た傾向は居住年数別で見た場合にも確認でき、居住年数の長い人ほど稲葉に、逆に居住年数の短い人ほど斎藤に投票する傾向が表れた。稲葉、斎藤の両名については、年齢層や居住年数による投票傾向の違いがかなり明確に表れたと言える。他方で、出直し選挙で3番手に終わった野村に関しては、年代や居住年数によらず、投票した人の割合は概ね一定であり、また最下位であった小泉については回答者数が少ないため、何らかの明確な傾向を見出すことは難しい。

9. 各候補への投票および棄権の理由

また、その候補者に投票した理由も具体的にお聞かせください。 ※自由回答形式

【稲葉孝彦・投票理由】		%
ごみ問題を責任を持って解決してほしいから	42	21.8
消去法で選んだ	35	18.1
前任時の実績や安定感を評価して	30	15.5
これまでの経験や人脈に期待して	29	15.0
人柄が良く信頼できる	14	7.3
その他	13	6.7
無回答	61	31.6
合計	193	100.0

【斎藤康夫・投票理由】		%
稲葉氏に不満があったから	58	32.0
消去法で選んだ	25	13.8
ごみ問題を解決してほしいから	25	13.8
市議の経験があり市政を把握しているから	25	13.8
人柄や経歴から信頼できる	21	11.6
市を変えてくれそうだから	20	11.0
政策や公約に共感したから	14	7.7
その他	1	0.6
無回答	51	28.2
合計	181	100.0

【野村隆・投票理由】		%
元官僚の経験を活かしてほしいから	28	22.8
稲葉氏に不満があったから	26	21.1
ごみ問題を解決してほしいから	17	13.8
市を変えてくれそうだから	15	12.2
しがらみの無さに期待して	14	11.4
消去法で選んだ	13	10.6
政策や公約に共感したから	8	6.5
その他	3	2.4
無回答	34	27.6
合計	123	100.0

【小泉民未嗣・投票理由】		%
政策や公約に共感したから	7	20.6
他の候補を支持できないから	6	17.6
若さに期待して	5	14.7
市を変えてくれそうだから	5	14.7
共産党に期待しているから	4	11.8
その他	2	5.9
無回答	12	35.3
合計	34	100.0

[3] 問15[1]で「2. 投票しなかった」と答えた方にお聞きます。あなたが投票しなかったのは、どのような理由からですか。次の中から、あてはまるもの全てに○を付けてください。

		%	
	用事・仕事があったから	97	37.5
	健康上の理由から	18	6.9
	投票に行くのが面倒だったから	26	10.0
	市長選挙に関心がなかったから	28	10.8
	自分が支持する候補者が当選しそうになかったから	14	5.4
	どの候補者が良いかよく分からなかったから	86	33.2
	自分一人が投票してもしなくても同じだから	29	11.2
	投票日を忘れていたから	22	8.5
	その他	30	11.6
99	無回答	2	0.8
	合計	259	100.0

各候補に対する投票理由については、まずは当然のことながら、ごみ問題に関する言及が多いという点が最大の特徴として挙げられる。当選した稲葉の投票理由として最も多かったのが「ごみ問題」であり、責任を持って取り組んでほしい、最後までやり遂げてほしい、といった意見であった。ごみ問題と関連づける形で「経験や人脈を活かしてほしい」「現状を一番よく把握している」などの回答も散見され、ごみ問題をめぐる「現実的な選択」として稲葉が選ばれたというのが、今回の出直し選挙に関する妥当な捉え方になると思われる。この他、ごみ問題に対する直接の言及は無くても、後の設問でも示すように、ごみ問題を重視して投票行動を決定した有権者が多数いたことは間違い無いであろう。

ただ、その一方で、投票理由に関して各候補に共通して挙げられるもう一つの特徴としては、「消去法で選んだ」といったような、消極的な選択の結果であったとする回答が目立つことである。これは[3]の投票しなかった理由とも大いに関連性を持つものであり、「どの候補者が良いかよく分からなかったから」とする棄権理由は、「用事・仕事があったから」に次いで二番目に多く、他の理由と比べてもやや抜きん出ていると言える。また、投票した理由の記述欄を無回答とした3割前後の人々に関しても、その多くは、各候補を支持する積極的な理由が見出せないから空欄とした可能性が考えられる。それらのことも含めて考慮すると、今回の選挙では、どの候補に投票した有権者にしても、各氏のごみ問題に対する訴えや人柄、経歴等を積極的に評価して投票した人ばかりではないという指摘が成り立ちうる。前市長の辞職に伴う選挙で準備期間が短く、各候補の訴えが有権者に十分浸透しなかったという事情もあるだろうが、有権者にとって魅力的に映る候補者が出揃わなかったということも、ごみ問題に対する注目度の高さの割に投票率が伸び悩んだ要因の一つと言えるだろう。

10. その他の選挙、市長選でごみ問題をどの程度重視したか

[4] あなたは、昨年4月24日に行われた小金井市長選挙では、どの候補者に投票しましたか。または投票しませんでしたか。一つ選んで○を付けてください。

			%
1	佐藤和雄（無所属・新人）	349	41.4
2	稲葉孝彦（無所属・現職）	185	21.9
3	橋詰雅博（無所属・新人）	43	5.1
4	投票しなかった	193	22.9
5	当時、有権者ではなかった	30	3.6
99	無回答	44	5.2
	合計	844	100.0

[5] ではあなたは、小金井市長選挙の際に、可燃ごみ処理をめぐる問題のことをどの程度重視しましたか。昨年12月と4月の市長選挙それぞれについて、一つずつ選んで○を付けてください。

【昨年12月の市長選挙に際して】			%
1	かなり重視した	385	45.6
2	ある程度重視した	251	29.7
3	どちらともいえない	82	9.7
4	あまり重視しなかった	38	4.5
5	全く重視しなかった	15	1.8
99	無回答	73	8.6
	合計	844	100.0

【昨年4月の市長選挙に際して】			%
1	かなり重視した	345	40.9
2	ある程度重視した	239	28.3
3	どちらともいえない	86	10.2
4	あまり重視しなかった	56	6.6
5	全く重視しなかった	15	1.8
	非該当	30	3.6
99	無回答	73	8.6
	合計	844	100.0

[6] 2009年の衆議院議員選挙では、どの候補者・政党に投票しましたか。小選挙区（東京18区）については一つ選んで○を付け、比例代表については投票した政党名を[]内に記入してください。

【小選挙区】			%
1	菅直人（民主）	414	49.1
2	土屋正忠（自民）	162	19.2
3	小泉民未嗣（共産）	31	3.7
4	森香樹（幸福実現）	4	0.5
5	投票しなかった	109	12.9
6	当時、有権者ではなかった	64	7.6
99	無回答	60	7.1
	合計	844	100.0

【比例代表】			%
1	民主党	336	39.8
2	自由民主党	127	15.0
3	公明党	18	2.1
4	日本共産党	43	5.1
5	社会民主党	7	0.8
6	国民新党	1	0.1
7	みんなの党	26	3.1
8	新党日本	1	0.1
9	幸福実現党	3	0.4
0	投票しなかった	100	11.8
66	当時、有権者ではなかった	10	1.2
99	無回答	172	20.4
	合計	844	100.0

[4]の単純集計においては、実際の選挙における得票状況と比べて、佐藤に投票したと答えた人の比率がかなり高いと言える。これは特に本調査の意図するところではないが、当時の佐藤に対する期待感から投票した人の多くが、今回の調査にもとりわけ関心を持ってくださったということの表れと考えられる。

出直し選挙に関する集計結果との間でクロスデータを見ると、投票参加との関係では、4月の前回選挙で3氏に投票した人のうち、出直し選挙で「投票しなかった」と答えた割合が1割弱と最も低かったのが稲葉に投票した人で、2割弱と最も高かったのが佐藤に投票した人であった。棄権者の回答が少ないため、あくまで参考程度のデータとなるが、佐藤に投票し市を変えてくれることに対する期待が大きかった人ほど、その後のごみ問題をめぐる経過の中で失望し、出直し選挙における投票意欲を失ったことを示唆するものと言える。また、投票先に関するクロスデータでは、2回続けて稲葉に投票した人の割合は、4月の選挙で同氏に票を投じたと答えた人の8割弱となっており、一方、前回佐藤に投票した人では、斎藤に4割弱、野村に2割強という形で、やはりこの両者を中心に前回の佐藤票が出直し選挙において分散したことが分かる。

続いて[5]では、昨年2度行われた市長選挙において、ごみ問題のことをどの程度重視したかを尋ねている。12月の出直し選挙と佐藤が当選した4月の選挙のいずれにおいても「重視した」と答えた割合は高く、「かなり」と「ある程度」を足し合わせると、いずれの選挙でも7割前後の人が可燃ごみ処理の問題を重視していたことが読み取れる。この数字は、投票を棄権した人の回答も当然含むものであり、出直し選挙で「投票しなかった」と回答した259人の中でも、ごみ問題を重視したと答えた人の割合は合計で4割強に上る。つまりこのことは、ごみ問題を一つの重要な判断基準として投票するか否かを検討した挙句、いずれの候補者にも投票する価値を見出せずに棄権した、という有権者が一定程度存在していたことを示唆するものであり、ごみ問題に対する関心度と選挙に対する関心度が一致するものではないことを表していると言える。

[6]では、政権交代が起こった2009年の衆議院議員選挙での投票行動について尋ね

たが、小金井市政や市長選挙と一見無関係に見える国政選挙に関しての設問を設けたのは、2009年当時の民主党や菅直人に対する期待と、昨年的小金井市における佐藤和雄への期待に、何らかの類似性があるのではないかと考えたためである。そうした観点から、両者に対する支持の関連性について見ていくと、総選挙で菅直人に投票した人の中では、昨年4月の市長選で6割弱が佐藤を選んだと答えている。比例区での民主党に対する投票との間でクロスデータを取っても概ね同様の数字となる。他方で、12月の出直し選挙と衆院選とのクロスデータで確認すると、衆院選で菅直人に投票した人のそれぞれ2割前後が、稲葉、斎藤、野村の3候補に分散し、また投票しなかったと答えた人も2割強に上った。この点については、今後さらに詳細な分析を試みたいと考えている。